NEWSLETTER

マネージメント情報

2022年6月

Total Herd Management Service

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

マネージメント情報

※授精体制についてのお知らせ

5月末日をもって弊社授精師の太田智享、中西晴香、川上晃平の3名が退職し、6月1日から中標津町で新会社を立ち上げ独立開業しました。
太田授精師は平成21年6月にTHMS授精師第一号として採用、授精業務の土台を作りあげ、受精卵移植の普及に貢献し、ちょうど13年間、中西授精師は事務職員として平成26年12月に採用され、その後平成28年8月に授精師免許を取得し9月より授精師として5年9ヶ月、川上授精師は平成30年2月に顧客農場より授精師見習いとして転職・採用され、同年8月に授精師免許を取得し翌9月より授精師として3年9ヶ月の間、各々THMSの一員として勤務しました。

授精師3名の退職に伴い、4月1日に福島瞳授精師、5月21日から川井武志授精師の2名のベテランが採用となり現時点では長山、相内、新卒の夏井授精師と合わせて5名体制を維持できる状況です。
また、7月1日よりもう1名授精師の採用が1年間という短期間ですが決まっていまして授精業務を充実させていきたいと考えています。
引き続きTHMSの授精師をよろしくお願いいたします。

※ 愛知県でHolsteinとMontbeliadeのF1受精卵産子誕生しました

HolsteinとMontbeliadeのF1が暑熱に抵抗性があるということで、食肉処理場由来のHolstein卵巣から卵子を吸引し、Montbeliadeの精液で体外受精をして生産した凍結受精卵に愛知県のあかばね動物クリニックの濱嶋先生が興味を示していただき、今回の子牛誕生となりました。
以前のM情報にも書きましたが、愛知県では乳牛が熱射病になったら食欲不振とか調子が悪くなるのではなく、死亡や廃用になることが当たり前の地域なのですが、その様な状況にならないようにHolsteinとMontbeliadeのF1が置き替えることができるのではないかということで今回の挑戦が始まりました。
何故、受精卵移植という方法になったかと言いますと、Montbeliadeの精液の販売は道内に限定されていて、府県で販売はされていないということがその理由です。
妊娠・分娩し結果がでるにはさらに2年の時間が必要ですが、Montbeliadeの精液販売会社のフランスのCoopex社の話ではここ数年中南米へのMontbeliadeの精液の輸出が爆発的に増加しているとのことです。在来種にMontbeliadeを交配してF1生産しているそうです。
そういう意味でもかなり期待できるのではないかと考えています。

※ 世界の受精卵事情　IETS ホームページより

【世界の受精卵生産量の推移 2001－2020】 IVD が体内受精卵・IVP が体外受精卵

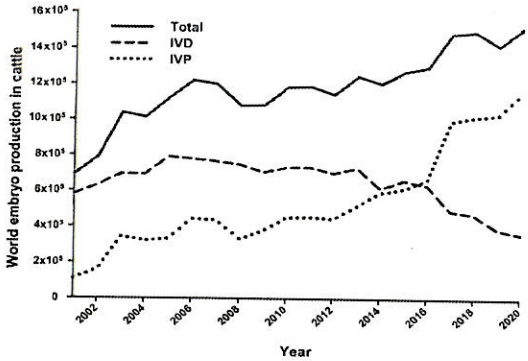

Figure 2. Number of bovine embryos (*in vivo* derived [IVD], *in vitro* produced [IVP] and total) recorded in the period 2001-2020

卵が初めて 150 万個を超えたということ。
また 2019 年に動きが鈍くなっているのは
世界的なコロナウィルスのパンデミックの
影響と考えられています。
世界的には 2016 年に体内と体外が逆転し、
その差は益々開いてきています。
データはありませんが日本国内でもその傾
向は現れてきていると考えています。

注目すべき点は 2020 年に生産された受精

【地域別受精卵生産量の推移 2001－2020】

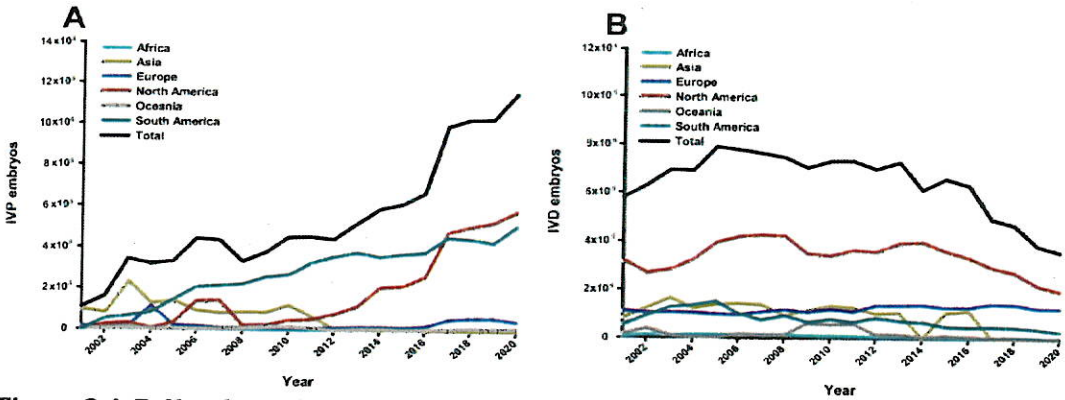

Figure 3 A-B. Number of embryos produced or collected in cattle in the period of 2001-2020, by continent. A) *In vitro* produced [IVP] embryos; B) *In vivo* derived [IVD] embryos

体外受精卵、体内受精卵ともに北米（アメリカ・カナダ）の動向で大きく左右されています。
体外受精卵については南米がリーダーでしたが 2017 年に北米が逆転していますが体外受精卵
については南北アメリカの生産量＝世界の生産量になっています。

【体内体外受精卵新鮮胚と凍結胚の推移 2001－2020】

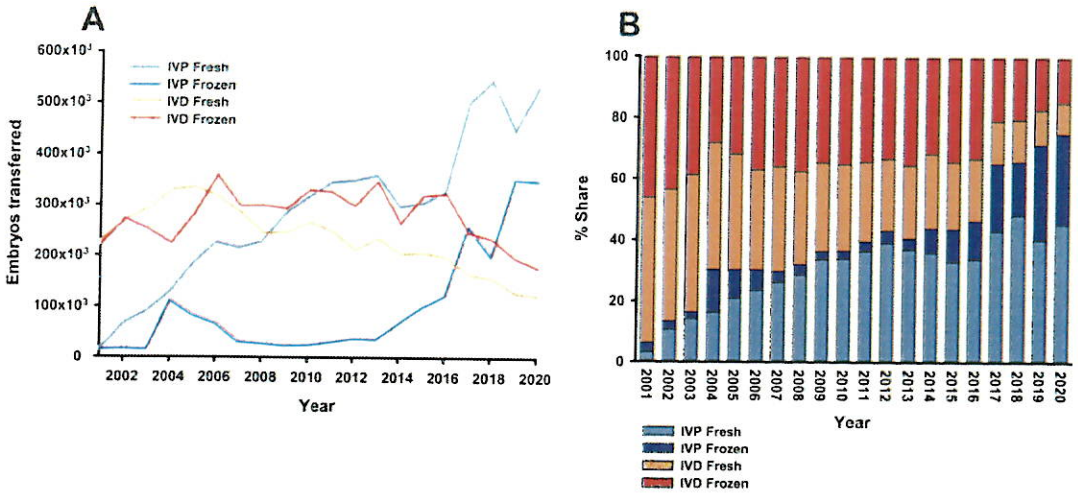

Figure 4 A-B. Embryo transfers in cattle in the period of 2001-2020, according to the origin of the embryo (*in vivo* derived [IVD] or *in vitro* produced [IVP]) and the technique used (fresh or frozen-thawed). A) Number of embryos transferred; B) Percentage share of the total embryo transfers per year.

ポイントとしては体外受精卵の培養技術の進歩に伴い凍結胚の品質が向上し凍結胚の割合が増えてきているということになります。

以前は凍結体外受精卵は体内受精卵と比較して受胎しない受精卵という考えが一般的でしたが世界的にその問題が解消されてきているということになります。

……

・1970 年代に二度あったオイルショック以来の飼料や必要資材の未曾有の値上げは今後どこまで影響を与えるのでしょうか？
当時は高度経済成長期まっただ中で、それに伴い国全体で所得も上がって行きましたが現実は「スタグフレーション」という経済活動が停滞しているなかでインフレが進む最悪の状況です。この先どうなるかは神のみぞ知ると言うことなのでしょうが、牛飼いにとって一番大事なことはいつもどおりに淡々と毎日を繰り返すということになると思います。
必要以上に牛に変化を与えないということだと思います。

・今年はオオジシギの鳴き声がいつもより聞かなくなりどうしたのかな？と、気になっています。尾羽を開いてでるという急降下の羽音を聞くこともめっきり少なくなりました。
ちなみにオオジシギは王子シギではなく冬の水田に多いタシギ（田シギ）と区別して内陸の地面にいるシギという意味でジシギ（地シギ）の仲間でオオ・ジシギが正解です。

・先日移動中に初めてヒグマを見ました。突然道路脇から大きな黒い犬が出てきたと思いましたがそれがヒグマだとわかった時には既に道路を横断していなくなってしまいました。
熊出没の立て看板を頻繁に見ますが、どのようにして熊を見つけるのかと思っていましたが一瞬の出来事なんだということがわかりました。

R4.6.13.Y

命ある限り・・・

阿部

前回は「壱岐の畜産が“兼業”で支えられている」ことを少し述べました。このことは、北海道のしかも私が居た（11年ぶりに今居る）環境からは真逆の畜産形態であり、本当に不思議な世界に迷い込んだ感覚でした。しかも、診療所が「壱岐市家畜診療所」という公務員体質のものでしたので、ほとほと疲れることもありました。九州というだけで封建的な考えが一般的です。それが“離島”ならさらに強固なものになります。例えば、私に宮崎大学から蹄管理の講演依頼があった時、所長殿に「宮大から講演依頼があったから○月X日に行ってきます。」と告げたならば・・・「それを決めるのは君ではない。だいたい、あんたは割かし有名だそうだが、わしは知らんから・・・。」となるのです。ですから、講演依頼が来たら、「大体の日取りは決めておいて、先方には、私は知らないことにして所長殿に先ず連絡したという体裁を取る」ことにしました。他にもたくさんの儀礼（根回し）が必要でしたが枚挙にいとまがないので割愛いたします。

封建的であることで進歩の度合いが減じられることは間違いないのでしょうが、他方壱岐のような高齢化が進んだ地域においては仕方のないこととも言えます。右の写真は2ヵ月に一度開催される家畜市場の一コマですが、明らかに高齢者の多い景色です。実は牛をセリ場に連れてくるにあたっては、JAの存在なしには行えません。毎月JAの指導員が牛を点検しに全農家を回ります（我々診療所の獣医師も同行します）。どの牛をセリに出すか、どの牛を去勢するか、ワクチンは・・・など、ある意味周囲が主導となる場面も多く、とあるJAの若手指導員は、「じいちゃんばあちゃんには牛を飼ってもらっている。」と言っていました。兼業の高齢者による小規模（1～10頭）が主流の農家は、いわば「ホビーファーム」です。しかしながら、実は、日本の和牛文化、和牛の世界を支えてきて、今でもある意味主流なのは九州や本州のこの方たちなのです。田畑を作り、収入はそこそこでも堅実な家族経営です。しかしながら、一方で農家戸数ばかり多く（壱岐島には800戸の農家が、約7,000頭の和牛がおり、獣医師は10人体制）、なかなかまとまるのが難しいし、いわゆる技術指導も行き渡らない。ある意味素人集団ともいえます。ある時難産で出向いたとき、それは逆子でした。そこのおじいちゃんが、「ワシは牛飼い30年やっとるが、逆子は初めてじゃ。」とおっしゃる・・・そこには3頭の牛が居たので、1／3x30で、ほぼ1％となりますが、これが100頭規模なら年に1頭になります（実際にはもっと多いでしょう）。余り少ないなら、それを覚えて対処するよりも専門家に任せた方が確実でもあります。ですから、壱岐では難産でなくてもお産で呼ばれることも普通でした。まあそうやって安定的に「牛を飼っていただく＝文化と経

壱岐市家畜市場の風景
（壱岐市長のブログより）

済を堅持する」ことを行うのだなぁ。。。とつくづく感心しました。

ところで、私が 7 年半の間に受け持った 100 近くの農家の中でその期間に 13 人の方がお亡くなりになりました。一人は私と同年代の女性が脳腫瘍で 1 年半の闘病をなされましたが、他の方は皆 80 を超えた方々で、元気に農家仕事をされ、入院されてからほぼ 1 ヵ月以内に旅立たれます。しかもその 1 ヵ月の間も、「牛はどうしてる～？」と牛の心配をされているそうです。私の母は 7 年余り病室の天井を見て逝きました。私は、母のこともあり、「痴呆」について少し学びました。いくつかの本に、「犬猫、金魚、草木でもよいから何か養うことは予防・改善策になる」と書いてあります。であれば、牛を飼う方がよほど良いに決まっています。なぜなら「世界経済の中に居る」からです。人間として生きていく中で、“自信”はとても大事です。そのようなご両親の最期を看取って、戻る気がなかったはずの息子さんが、我が家の牛をそのまま保留して飼養する後継者も多くおられました。定年後 60 歳から 80 余歳までの 20 数年間の循環農業もあるのですね～

いろどり おばあちゃんたちの葉っぱビジネス （単行本）

壱岐で出会った楽しい方の中に「横石知二」さんがおられます。もう 20 年以上前になりますが「葉っぱビジネス」という言葉が流行ったことがあります。和食のツマ（ササやカエデやナンテンなどを栽培し収穫し卸す仕事を、徳島の上勝町という全くの山間の村で興した話です。200 戸の集落は潤い、視察団が今でも列をなし、若者も集まっています。壱岐の方にもご紹介したくて、壱岐テレビに問い合わせしたところ、「あなた自身で声をかけて呼んでください。手伝いますから。」と言われて、飛び込みで横石氏ご本人にメールと電話で問い合わせしたところ快く受けてくださいました。そして実際に壱岐に来て講演されました。さらには、半日間私の診療者に乗って農家回りしてくれたのです。その後の予定を伺うと、2 週間後に「ブータン」で同じ話をすることになっているとのことでした。“幸せの国”と呼ばれる国で・・・幸せに暮らすこと、しかも最後まで・・・これは我が国においては少子化の裏テーマとして今後ますます大きな問題となります。具体的には痴呆対策・尊厳死などにも繋がるでしょう。

高齢零細兼業農業と、大規模専業農業とは真逆ではありますが、素人同然の従業員教育を含めた人手不足問題や嫁不足問題を含めた後継者問題など同一線上の共通項が存在します。また、地域全体を（例えば壱岐島全体を一つの農場と考えて 7,000 頭牛群として考える、「島ぐるみの牛群管理」などもテーマかな、など考えております。今回はこの辺で・・・

横石さんには良い話をたくさん聞けたのですが、それはまた追々に。
人も牛も怪我や事故にお気をつけて、牧草収穫時期を乗り越えましょう。

30を超えたころに、アメリカから帰ったばかりの黒崎先生の講演を聞く機会があり、「なんとか技術をものに出来ないか」と悪戦苦闘しているまさにそのタイミングで、人の良い獣医さんに早期妊鑑を教えて頂く機会に恵まれました。その先生は現社長の山下先生です。

35日の胎児に触れた時の衝撃を今でも鮮明に覚えています。(今は超音波診断装置を使いこなす子供のような先輩たちに毎日しごかれ時代の変化に衝撃を受けています。)

そんなご縁で、この度トータルハードの仲間に入れて頂くこととなりました。

私は先生に引き抜かれた"藁"です。既に枯れています。スカスカで中身はカラッポ。簡単に火が付き灰になります。ですが、上手に使っていただければ肥しを作る足し位にはなれるかなと思っています。

別海農協～道東あさひで育ててもらい、S.C.B.S.で鍛えられ T.H.M.S.で老いさらばえて行く、フレッシュ感とは無縁の新入社員です。優しく使っていただければ少しは長持ちするかも知れません。どうぞ宜しくお願いします。

氏名　川井 武志
年齢　57歳
出身　サロマ町
趣味　夏は草刈りとバイク　冬は除雪とスキー

改めて自分の役割を思い知った写真（企業説明会用に撮影）

退職のご挨拶

この度、私事ではございますが令和４年６月３０日をもって退職させていただく事となりました。
トータルハードマネージメントサービスに入社してからの５年間、黒崎先生をはじめ獣医師、授精師、事務員、農家の皆様のお力添えとご指導のおかげで牛に関する知識を少しですが学ぶことができ私にとって、とても充実した日々を過ごすことができ、心よりお礼申し上げます。

また、既にご報告させていただいている方もいらっしゃると思いますが、
岩泉 慶 獣医師と２０２２年２月２２日に入籍致しましたのでご報告させて頂きます。
わたくし個人のお話させて頂くのですが、現在６匹の猫に囲まれ生活をしております。入籍をした日に２が６つ入っている事もあり急に思い立ったかのように夜中、猫柄の婚姻届けを出しに行きました。
お祝い、お言葉を頂いた皆様にこの場をお借りし、改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、秋には新しい家族も増えますので 岩泉獣医師と共に様々なことに精進していきたいと思うの同時に岩泉獣医師は末永くお世話になりますので今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。
末筆ながら皆様のなお一層のご発展ならびにご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

岩泉 麻依（旧姓 佐藤）

退職のご挨拶

この度、私事ではありますが、6 月 30 日をもちまして退職させていただくことになりました。紙面にて大変恐縮ですがご報告させていただきます。
トータルハードマネージメントサービスでは高校を卒業してからの約 5 年間、大変お世話になりました。高校を卒業したばかりで一般的な常識はもちろん、酪農に関する知識も全くなく、たくさんの方々にご迷惑をおかけしてしまい申し訳なく思っております。
そんな中、新卒で入社した私を快く受け入れてくださり、諸先輩方の暖かいご指導のおかげで5年前よりも成長できたのではないかと個人的には感じております。
社会人としてはまだまだ未熟な部分が多く、初めて入社したこの会社を去ることに不安と寂しさを感じておりますが、自分で決めた道ですので、今まで以上に成長できるように気を引き締めて頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。
皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

2022年6月30日　　前田 奏